

活動紹介

平成28年度第2回勉強会

技術と知財で勝る日本が、なぜ世界で勝てないのか ～K.I.T.プロフェッショナルミーティング「知財戦略のススメ」 （日経BP）出版記念イベント聴講報告～

平成28年7月22日18:30-20:00、第2葺手ビルにて開催しました。

講師は知的財産コンサルティングセンター企画役員 安藤裕氏で、PCIP会員6名、の方が参加されました。

下町ロケットの弁護士のモデルでもある鮫島正洋氏とデロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社の小林誠氏の共著である「知財戦略のススメ」の出版記念イベントを聴講しての報告です。

鮫島氏の「知財戦略を支える4つのセオリー」第1理論：知財活動のコストとリターン、第2理論：必須特許取得のプロセス、第3理論：知財経営定着理論、第4理論：技術のコモディティ化理論（知財戦略が機能しなくなる）から、「知財での競争力付与」と「知財以外の付加価値での競争力付与」を紹介しました。たとえば、日本企業のカーナビの特許取得数の多さはシェアの低下を食い止められなかったという衝撃の事実から、知財戦略には適用限界が存在するのではないか？シャープの太陽光パネル事業も引き合いに出して論じました。

そこには、技術のコモディティ化＝満了特許のみを用いて製造できる製品でお客様は満足する、という視点を提示し、導入・成長のステージ1、成熟期のステージ2、衰退期（特許の権利満了後のコモディティ化）のステージ3に分類して分析と対策を行いました。コモディティ化されても、社会の変化による新たな市場が要求するプラスアルファがブレークスルーとなる可能性をしめしました。

勉強会風景

